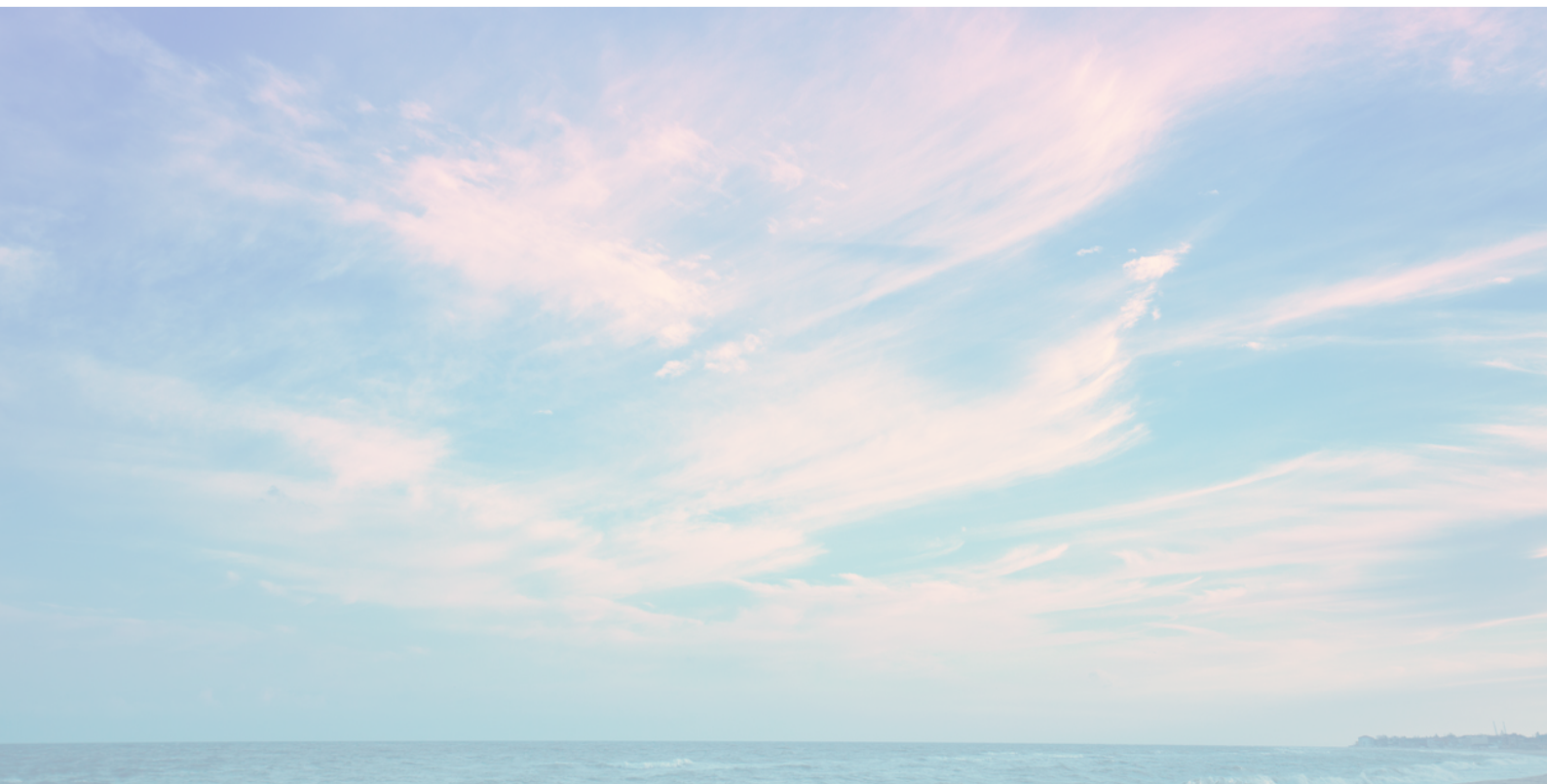


高齢社会総合研究国際卓越大学院

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology:
Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society
(略称:WINGS-GLAFS)

プログラムの概要	104
プログラム担当教員	107
応募状況と合格者	109
WING-GLAFSの全体像	110
学生の業績	111



プログラムの概要

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、対象としています。

■1_プログラム参画専攻(2023年度)

本プログラムは、以下の専攻に所属する学生が履修することができます。

【工学系研究科】	全専攻
【人文社会系研究科】	社会文化研究専攻
【教育学研究科】	総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻
【法学政治学研究科】	総合法政専攻
【総合文化研究科】	広域科学専攻
【農学生命科学研究科】	生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻
【医学系研究科】	社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻
【新領域創成科学研究科】	人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻
【情報理工学系研究科】	知能機械情報学専攻
【学際情報学府】	学際情報学専攻

■2_カリキュラム

<必修・座学>

高齢社会総合研究学通論Ⅰ・Ⅱ(1単位×2科目・2単位)

・俯瞰力の修得

高齢社会の基礎を「心と体の健康」、「社会環境」の2側面から効率的に理解し、「俯瞰力」を養います。

<必修・演習>

・現場解決力(1単位×1科目・1単位)

活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。

<選択必修> 高齢社横断科目群(4単位以上)

・領域連携力の修得

超高齢社会の視点で、自らの専門領域あるいは他の領域を、各専攻から提供される幅広い科目から選択して学び、「領域連携力」を養います。



高齢社会演習
2023年度 プログラムNo. 2301
「フレイル予防」



■担当教員：飯島勝矢(未来ビジョン研究センター・教授)、孫蘭蘭(未来ビジョン研究センター・特任准教授)

■概要：
人生100歳時代を迎え、高齢者が自ら生き生きするためには、「健康増進-フレイル(虚勢)予防」が重要であり、そのための地域での組織的な取組が必要である。そのための地域住民主体のフレイルチェック運動を推進し、思いやりであるフレイルサーター(地域高齢者)を養成することで、参加高齢者とともにフレイルの発現に気づき、フレイル予防活動を持続的に行える地域プログラムを開発した。

2023年度のフレイル予防の演習は現在、進めている科学技術振興機構(IST)・未来社会創造事業(研究課題名:新価値「WIGA」創成)による社会貢献活動の個人連携化の一環として実施する。具体的には定例会合に参加し、JST研究の目的である地域貢献活動の取り組み(例:フレイルサーター)が活動を通じて感じ生み出されることを新価値WIGAとして概念化し、その人の表現や意見、行動情報から計画、WIGAを定量化する研究に参画する。本演習を通じて、WIGAの計画・実践・評価、WIGAの活用や向上、地域活動の発展などとの総合知(人文社会、情報理工、工学、医学、新領域など)の取り組みを学び、自分の研究に対する考え方や分野横断的な方法を学ぶ。

■日程：
10/11(木) 16:00-19:00 (3h) フレイル予防実習ガイダンス+JST-MIRAI全体会議
11/16(木) 17:00-19:00 (2h) JST-MIRAI全体会議
12/8(金) 16:30-18:30 (2h) JST-MIRAI全体会議
1/19(金) 16:00-18:00 (2h) JST-MIRAI全体会議
2/14(木) 15:00-17:00 (2h) JST-MIRAI全体会議
3/15(木) 15:00-17:00 (2h) JST-MIRAI全体会議
日程調整中 西東京市の高齢者e-sports活動の見学

■留意事項：
・上記プログラム出席希望者は必ずフレイル予防実習ガイダンスを受講すること(録画可)
・履修希望者は、(照)son@glafs-u-tokyo.ac.jpへ連絡すること
・交通費、研究活動経費は別途支給

フレイル予防



高齢社会演習
eVeh年度 プログラムE1 NahaW
IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference



■参加者の募集
IARU(International Alliance of Research Universities)とは何ぞ? I大学が参加する。学生の分野横断的な連携と協働的なコラボレーションに重きを置く組織です。IARUは定期的に学生のための交流カンファレンスを開催します。その一環として高齢社会と健康、健康とサステナビリティをテーマにカンファレンスを開催します。カンファレンスでは基調講演を初め、自身の研究の発表、グループディスカッションが行われます。

日程：2023年10月16日から18日
開催場所：東京大学(使用言語は英語です)

■プログラムスケジュール
■全3日間のカンファレンス
■1日目：参加者の研究紹介
■2日目：研究紹介、基調講演、WS
■3日目：ネットワーキング、最終報告

※期間あり

参加のメリット
自身の研究について、国際的な場で意見交換ができる
海外の研究生活を垣見することができる
国際的な学生生活、学生研究発表の場が広がる

申し込み方法：
1. 2023年9月7日(月)までに、WINGS-GLAFS事務局 (info@glafs-u-tokyo.ac.jp)まで。
氏名、所属、専攻をご連絡ください。
問い合わせ先: WINGS-GLAFS事務局 (info@glafs-u-tokyo.ac.jp)

IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference



高齢社会演習
2023年度 プログラムNo. 2308
2023 International Workshop in Northern Europe



■担当教員：Toshio Onuki

■概要：
Please see attached file or https://glafs-u-tokyo.ac.jp/snp/2023WS_Northern_Europe.pdf for details.

■日程：2023/9/13 (Wed) - 9/21 (Thu)

■場所：KTH Royal Institute of Technology, Furrub Robotics, Aalto University, Company in Helsinki

■留意事項：
・ Only students from WINGS program are eligible for application. Students from the former curriculum can not apply.
・ Airline fees and hotel fees will be covered.

・ Due to the limited number of participant slots, WINGS-GLAFS will conduct applicant interview prior to the former registration. DO NOT SUBMIT directly to the GMSI Office until you receive a notice from the WINGS-GLAFS Office.

・ Please contact WINGS-GLAFS Office (info@glafs-u-tokyo.ac.jp) to show your will of participation (deadline 2023/5/30).

・ After interview with WINGS-GLAFS Office, students will be able to submit the form to the GMSI Office via URL below. (GMSI Office application submission URL: <https://www.dtophos.com/request/QueJaz2M2A6AF6U/XM>)
Since the deadline is close, students are encouraged to refer to the home page of the workshop and start preparing the application documents.

・ 13pt will be given if students fully participate in this event.
Please register the points from this form: <https://forms.gle/vw32Z4tsabqV6XX9>

・ Those who participated are required to give presentation report about the event after returning to Japan.

2023 International Workshop in Northern Europe



高齢社会演習
2023年度 プログラムNo.2312
「栄養とからだの健康増進調査」



■担当教員：
飯島勝矢(未来ビジョン研究センター/高齢社会総合研究 機構長・教授)
孫蘭蘭(未来ビジョン研究センター・特任准教授)
田中茂樹(高齢社会総合研究機構・特任助教)

■概要：
高齢者を取り巻く研究活動は、地域における介入研究から、医学の分野の共同研究、多岐に渡ります。本プログラムでは平成24年から長年にわたり行われている共同研究「栄養とからだの健康増進調査(調査:給スダ)」の調査に参加する学生を募集します。この共同研究は、一つの命題において多岐にわたる調査、調査による社会生活の調査が行われますが、事前調査の承認記入票の確認および聞き取りを行うスタッフを募集します。WINGS-GLAFSに在籍している、豊かな論文を採んだり、研究活動に関与することがあると思いますが、その現場を体験することに興味を持ち、周りと活動できる学生を募集します。

■内容・開催日時：
10/23日(月)、25日(水)、26日(木)、31日(火)、11/1日(火)
9時～12時(全3回) 定時参加制(1回1時間(1時間は参加不可))

■参加費：
※全日参加をしてくることもOKです。参加可能な日時を、後ほど教員と調整ください。

■開催場所：
東京大学柏キヤンパス 総合研究棟 6階 633室
※交通費は支給されます。

■参加方法：
参加希望者は、[10月13日(金)まで]にinfo.fra@glafs-u-tokyo.ac.jpにご連絡ください。

■ポイントの獲得：
事前レポートや当日現場で仕事をした時間をポイントに換算します。活動中に、教員から提示された特設オンラインの実習日記にて活動レポートと別に提出することにより、ポイント獲得となります。

栄養とからだの健康増進調査

<全体研究発表会> 多領域連携

(演習発表／博士論文進捗発表会)

演習履修者には、年に2回の全体研究発表会を設け、それぞれの演習の成果を発表する。加えて、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文進捗状況の発表を行い、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

■3_開講科目

2023年度開講科目一覧

2023年度カリキュラム一覧								
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修 選択必修	開講日講義室名 その他特記事項
講義 (必修:2単位)								
3799-461	高齢社会通論1	1	A1	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	10/4～11/29オンライン (初回はハイブリッド)
3799-462	高齢社会通論2	1	S2	大月	水	5限 16:50-18:35	必修	6/7～7/19 オンライン
演習 (必修:1単位)								
3799-463	高齢社会演習	1	通年	各教員	—	集中	選択必須	開催日、開催場所は 各プログラム 担当教員が指示 WINGS-GLAFS生は この単位を履修
3799-234	高齢社会総合研究学実習Ⅰ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-235	高齢社会総合研究学実習Ⅱ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-236	高齢社会総合研究学実習Ⅲ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-237	高齢社会総合研究学実習Ⅳ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-238	高齢社会総合研究学実習Ⅴ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-239	高齢社会総合研究学実習Ⅵ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-240	高齢社会総合研究学実習Ⅶ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-241	高齢社会総合研究学実習Ⅷ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
3799-259	高齢社会総合研究学演習Ⅹ	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上
講義 (選択必修:4単位以上)								
●各参画専攻から提供された高齢社会横断科目群 (別表) の中から選択して合計4単位以上を履修する ●以下はIOG提供の高齢社会横断科目群を示す (リーディング大学院履修生で特論未履修の者は下記を履修する)								
3799-225	高齢社会総合研究学特論Ⅳ 産学官民連携で作り上げる 高齢者の健康と地域のあり方	2	A2	飯島	水	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	12/6～1/24 オンライン (1,9,11,12回はハイブリッド)
3799-226	高齢社会総合研究学特論Ⅴ 地域農業マネジメント	2	A2	八木	火金	5限 16:50-18:35	選択必修	(週2回)オンライン
3799-227	高齢社会総合研究学特論Ⅵ 高齢者法	2	A1A2	樋口	木	3限 13:00-14:45	選択必修	オンデマンド
3799-231	高齢社会総合研究学特論Ⅹ ジェロントテクノロジー	2	A1A2	二瓶 檜山	金	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	オンライン

実習・演習Ⅹはリーディング大学院履修生のみ

■4_プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程1年次修了時点のQualifying Examination 1 (QE1)、修士課程2年次修了時点のQualifying Examination 2 (QE2)、並びに博士課程修了時のFinal Examination (FE) の合計3回審査を行います。

■修士課程修了時 資格審査(QE:Qualifying Examination)

- ・「単位要件」等によって審査します。
- ・単位要件：通論（必修）1単位以上の取得。

■修士課程修了時 資格審査(QE2:Qualifying Examination2)

- ・「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって審査します。
- ・単位要件：通論（必修）2単位の取得と高齢社会横断科目群2単位以上の取得。
- ・学振要件：日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC1）に申請。
- ・博士課程進学の確認：面接により博士後期課程進学予定を確認。

■博士課程修了時 修了審査(FE:Final Examination)

FEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」、「博論要件」によって審査します。この審査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記されます。

- ・単位要件：通論(必修)2単位と、実習(必修)1単位以上と、高齢社会横断科目群(選択必修)4単位以上、合計7単位以上取得
- ・発表要件：博士課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表
- ・学振要：日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請
- ・博論要件：提出した博士論文の発表を通じて、高齢社会の基礎の理解を踏まえているかを審査

■5_経済的支援(卓越RA)

経済的支援は、所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RAとして委嘱します。

修士課程2年次、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給します。

プログラム担当教員

*所属・職名は2024年3月末現在

氏名	所属（研究科・専攻等）・職名
加藤 泰浩	工学系研究科・研究科長、システム創成学専攻・教授
大月 敏雄	工学系研究科建築学専攻・教授、高齢社会総合研究機構・副機構長
飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構・機構長／未来ビジョン研究センター・教授
祐成 保志	高齢社会総合研究機構・副機構長／大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・准教授
井口 高志	大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻・准教授
高橋 美保	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授
北村 友人	大学院教育学研究科 学校教育高度化専攻・教授
加藤 淳子	大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授
横山 ゆりか	大学院総合文化研究科 広域科学専攻・教授
福田 大輔	大学院工学系研究科 社会基盤学専攻・教授
松田 雄二	大学院工学系研究科 建築学専攻・准教授
小泉 秀樹	大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授
柳澤 秀吉	大学院工学系研究科 機械工学専攻・准教授
津本 浩平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・教授、工学系研究科・副研究科長
横野 泰之	大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構・上席研究員
浅間 一	大学院工学系研究科 精密工学専攻・教授
青山 和浩	大学院工学系研究科 システム創成学専攻・教授
小紫 公也	大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻・教授
峯松 信明	大学院工学系研究科 電気系工学専攻・教授
求 幸年	大学院工学系研究科 物理工学専攻・教授
吉田 英弘	大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻・教授
山口 和也	大学院工学系研究科 応用化学専攻・教授
伊藤 大知	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻・教授
森本 淳平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・講師
檜山 敦	大学院工学系研究科 先端学際工学専攻・特任教授
藤井 康正	大学院工学系研究科 原子力国際専攻・教授
酒井 崇匡	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・教授
古川 克子	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・准教授
茂木 源人	大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻・教授
高木 強治	大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻・教授
霜田 政美	大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻・教授

プログラム担当教員

*所属・職名は2024年3月末現在

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
三坂 巧	大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻・准教授
潮 秀樹	大学院農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻・教授
八木 洋憲	大学院農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻・准教授
高橋 伸一郎	大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻・教授
堀 正敏	大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻・教授
橋本 英樹	大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・教授(同研究科社会医学専攻兼任/健康科学・看護学専攻兼任)
小川 純人	大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻・准教授
山田 雄大	大学院医学系研究科 外科学専攻・講師
山本 則子	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授
橋爪 真弘	大学院医学系研究科 国際保健学専攻・教授
二瓶 美里	大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻・准教授
割澤 伸一	大学院新領域創成科学研究科・副研究科長 人間環境学専攻・教授
岡部 明子	大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻・教授
鈴木 綾	大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻・教授
鳴海 拓志	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・准教授
越塚 登	学際情報学府 学際情報学専攻・教授
濱田 健夫	学際情報学府 学際情報学専攻・特任准教授
孫 輔卿	未来ビジョン研究センター・特任准教授

プログラムメンバー

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
秋山 弘子	未来ビジョン研究センター・客員研究員
高瀬 麻以	工学系研究科建築学専攻・特任研究員
田中 友規	工学系研究科建築学専攻・特任助教
コスタンティーニ ヒロコ	未来ビジョン研究センター・特任助教
高齢社会総合研究機構GLAFS事務局	

応募状況と合格者

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
プログラム募集定員数	10人	14人	10人	10人
応募学生数	7人	31人	26人	42人
うち留学生数	0人	10人	8人	15人
うち自大学出身者数	2人(0人)	13人(0人)	9人(0人)	14人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	18人(10人)	17人(8人)	28人(15人)
うち社会人学生数	4人(0人)	3人(3人)	5人(5人)	10人(6人)
うち女性	3人(0人)	9人(4人)	6人(3人)	19人(8人)
合格者数	7人	14人	10人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人	1人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)	7人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)	3人(1人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)	1人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)	5人(1人)
②のうち受講学生数	7人	14人	10人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人	1人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)	7人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)	3人(1人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)	1人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)	5人(1人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.00倍	2.21倍	2.6倍	4.2倍
充足率(合格者数/募集定員)	70%	100%	100%	100%

※ 博士入学生 2020年度、2021年度：3年制博士1年次 各1名、2022年度：4年制博士1年次 1名、2023年度：0名

※()は留学生の人数

※ 2021年度は、2回(4月、9月)募集の合計

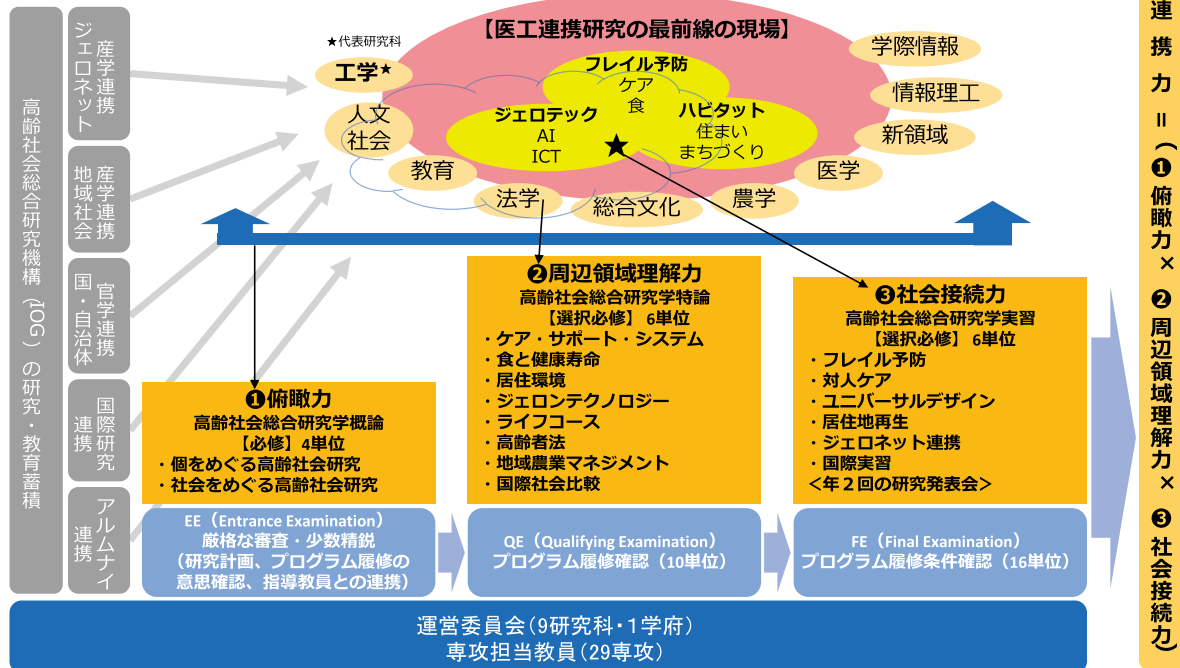
※各年度：各年度末現在

WING-GLAFSの全体像

■ 2020年スタート時

高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS

日本を皮切りに世界中のあらゆる領域でデフォルトとなっていく高齢社会特有の課題解決に向けて、
高齢社会総合研究学（ジェロントロジー）の体系を踏まえつつ、医工連携研究の最前線の現場で
俯瞰力、周辺領域理解力、社会接続力を育みながら、研究の多領域連携力を身につけた人材



■ 2022年度～



学生の業績

GLAFS の学生が 2023 年度に発表した研究論文や学会発表などの業績について紹介します。

リーディング生

田中 萌子

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Son, B. K., Miura, T., Yabu, K. I., Sumikawa, Y., Kim, D., Lyu, W., Yang, Y., Tanaka, M., Tanaka, T., Yoshizawa, Y., & Iijima, K. (2023). The Co-Design/Co-Development and Evaluation of an Online Frailty Check Application for Older Adults: Participatory Action Research with Older Adults. International journal of environmental research and public health, 20(12), 6101. 査読有
2. Nishihara, N., Haruna, M., Usui, Y., Yonezawa, K., Hikita, N., Sasagawa, E., Nakano, K., Tanaka, M., Ohori, R., Aoyama, S., Sasaki, S., Fujita, M., Matsuzaki, M., Suetsugu, Y., & Sato, Y. (2023). Dietary Intake and Its Association with Birth Outcomes in Women with Nausea and Vomiting during the Second Trimester of Pregnancy: A Prospective Cohort Study in Japan. Nutrients, 15(15), 3383. 査読有
3. Habe, S., Haruna, M., Yonezawa, K., Usui, Y., Sasaki, S., Nagamatsu, T., Fujita, M., Suetsugu, Y., Ohori, R., Tanaka, M., & Aoyama, S. (2024). Factors Associated with Anemia and Iron Deficiency during Pregnancy: A Prospective Observational Study in Japan. Nutrients, 16(3), 418. 査読有

とともに生きる人を含めた地域住民の「認知症本人発：希望のリーフォーラム」への参加を実現する過程と参加した体験に関する報告；本人たちの声を聞いた人々へと渡された「希望」と「尊厳」そして「自信」のバトン。認知症ケア事例ジャーナル，印刷中；16(4):000-000. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nakayama R., Ura C., Miyamae F., Inagaki H., Sugiyama M., Okamura T., Edahiro A., Awata S. Discrepancy between subjective and objective daily life ability lowers psychological well-being IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, 2023. 6.12-6.14. 査読有
2. Nakayama R., Wakui T., Sekino A., Okubo S. Practical research beyond multi-disciplinary family care: upcoming perspectives of junior researchers: The communication between a person living with dementia and family. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, 2023.6.12-6.14. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中山莉子，涌井智子，大久保豪，藤原聡子，関野明子．認知症高齢者の家族介護者のコミュニケーション尺度の作成．第 18 回日本応用老年学会，大阪，2024.10.28-10.29. 査読有

前田 一步

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 前田一步．都市公園の歴史社会学にむけて——歴史資料を渉猟し、計算し、読解する．まなびあい，2023; 16: 172-178. 査読無
2. 前田一步．前田愛から「街の読みかた」を学ぶ．メディウム，2023; 4: 65-76. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 前田一步．野宿者問題に対峙する戦前期東京の都市公園——「市民」を育てる公園管理思想．第 18 回日本社会学理論学会大会，神戸，2023.9.2-3. 査読無
2. 前田一步，瀬戸健太郎，堀江和正．戦後期・国鉄の女性労働者は組合にないを求めたか——国鉄労働組合婦人部実態調査（1952）の復元二次分析から．日本社会学会第 96 回大会，東京，2023.10.7-8. 査読無

中山 莉子

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 中山莉子・枝広あや子・岡村毅．ひとり暮らしの認知症高齢者の買い物支援．認知症ケア事例ジャーナル，2023;6 (3): 171-176. 査読有
2. 中山莉子・涌井智子・関野明子・大久保豪・栗田主一．認知症の人と家族のコミュニケーションの類型化に関する質的研究．日本認知症ケア学会誌，印刷中；23(2):000-000. 査読有
3. 樫村瑛里子・猪股和佳奈・中山莉子・高橋美保．リワークプログラムの実態とその長期的効果、及び関連要因に関する概観と展望——再休職予防に着目した文献レビュー——東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要，2024;47:000-000. 査読無
4. 見城澄子・中山莉子・枝広あや子・岡村毅・宇良千秋．認知症

● 受賞歴

1. 2023年9月「第1回日本社会学理論学会奨励賞」(前田一步・野宿者問題に対峙する戦前期東京の都市公園——「市民」を育てる公園管理思想)

呂 偉達

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 呂偉達, 田中友規, 飯島勝矢. “ポストコロナ時代における感覚器のフレイル予防”. *Progress in Medicine*, Vol.43 No.7 2023.7. 査読有
2. 呂偉達, 飯島勝矢. “フレイルの原因と予防法”. 「月刊糖尿病ライフさかえ」2023年11月号. 査読有
3. Lyu W, Tanaka T, Bo-Kyung S, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima K. Integrated effects of nutrition-related, physical, and social factors on frailty among community-dwelling older adults: A 7-year follow-up from the Kashiwa cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Nov 20. doi: 10.1111/ggi.14734. Online ahead of print.
4. Lyu W, Kousaka M, Jia H, Kato H. Effects of Turmeric Extract on Age-Related Skeletal Muscle Atrophy in Senescence-Accelerated Mice. *Life (Basel)*. 2023 Apr 3;13(4):941. doi: 10.3390/life13040941.
5. Kawamura J, Tanaka T, Kanno S, Osawa K, Okabayashi K, Hirano H, Shirobe M, Nagatani M, Son BK, Lyu W, Iijima K. Relationship between a gum-chewing routine and oral, physical, and cognitive functions of community-dwelling older adults: A Kashiwa cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Dec 6. doi: 10.1111/ggi.14757. Online ahead of print.
6. Son BK, Miura T, Yabu KI, Sumikawa Y, Kim D, Lyu W, Yang Y, Tanaka M, Tanaka T, Yoshizawa Y, Iijima K. The Co-Design/Co-Development and Evaluation of an Online Frailty Check Application for Older Adults: Participatory Action Research with Older Adults. *Int J Environ Res Public Health*. 2023 Jun 10;20(12):6101. doi: 10.3390/ijerph20126101.
7. Tanaka T, Yoshizawa Y, Kitamura K, Sugaya K, Miyajima K, Tsuneoka M, Son BK, Lyu W, Tsushita K, Iijima K. Frailty determined by the Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old is correlated with increased healthcare cost: Using the Japanese health insurance database system. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Dec;23(12):973-974. doi: 10.1111/ggi.14711. Epub 2023 Oct 19.
8. Tanaka T, Yoshizawa Y, Sugaya K, Yoshida M, Bo-Kyung S, Lyu W, Tsushita K, Iijima K. Predictive validity of the Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old for functional disability: Using the National Health Insurance Database System. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Feb;23(2):124-130. doi: 10.1111/ggi.14533. Epub 2023 Jan 13.

9. Hamada S, Sasaki Y, Son BK, Tanaka T, Lyu W, Tsuchiya-Ito R, Kitamura S, Dregan A, Hotopf M, Iwagami M, Iijima K. Association of coexistence of frailty and depressive symptoms with mortality in community-dwelling older adults: Kashiwa Cohort Study. *Arch Gerontol Geriatr*. Available online 21 December 2023, 105322. doi: https://doi.org/10.1016/j.archger.2023.105322.
10. Son BK, Imoto T, Inoue T, Nishimura T, Lyu W, Tanaka T, Iijima K. Different reversibility of skeletal muscle mass and strength in elderly Japanese women after the first wave of COVID-19. *JCSM Rapid Communications*. 6(1):26-32, 2023. doi: https://doi.org/10.1002/rco2.73.
11. Son BK, Lyu W, Tanaka T, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima K. Impact of the anti-inflammatory diet on serum high-sensitivity C-Reactive protein and new-onset frailty in community-dwelling older adults: A 7-year follow-up of the Kashiwa cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Dec 21. doi: 10.1111/ggi.14781. Online ahead of print.
12. Lyu W, Tanaka T, Son BK, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima K. Validity of a simple self-reported questionnaire "Eleven-Check" for screening of frailty in Japanese community-dwelling older adults: Kashiwa cohort study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2024 Feb;117:105257. doi: 10.1016/j.archger.2023.105257. Epub 2023 Nov 3.

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 呂偉達, 田中友規, 飯島勝矢. “ポストコロナ時代における感覚器のフレイル予防”. *Progress in Medicine*, Vol.43 No.7 2023.7. 査読有
2. 呂偉達, 飯島勝矢. “フレイルの原因と予防法”. 「月刊糖尿病ライフさかえ」2023年11月号. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Lyu W, Tanaka T, Son BK, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima M. Impact of nutrition-related, physical, and social factors and their combination on 7-year new-onset frailty among community-dwelling older adults: a Kashiwa Cohort Study. *IAGG Asia/Oceania Regional Congress*, Yokohama, 2023. 査読有
2. Lyu W, Tanaka T, Son BK, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima M. “Eleven-Check” Questionnaire: A Self-reported Tool for Physical Frailty Screening and Self-awareness Promotion in Japanese Community-dwelling Older Adults. *IAGG Asia/Oceania Regional Congress*, Yokohama, 2023. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 吉澤裕世, 秋下雅弘, 飯島勝矢. 地域在住高齢者において、運動習慣及び中高強度の非運動性活動がフレイル予防に対する効果の検証: ~柏スタディーの縦断調査~. 日本サルコペニア・フレイル学会 (東京), 2023. 査読有
2. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 吉澤裕世, 秋下雅弘, 飯島勝矢. 栄養・身体活動・社会性を軸とした「イレブンチェック」質問票のフレイルやサルコペニアに対するスクリーニング妥当性の検証. 日

		学生の業績
		WING-GLAFS
	本老年医学会（東京），2023. 査読有 3. 呂偉達，田中友規，孫輔卿，吉澤裕世，秋下雅弘，飯島勝矢．地域在住高齢者の栄養（食事と口腔機能）・身体活動・社会性の「三本柱」と7年間のフレイル新規発症との縦断検討．日本老年医学会（東京），2023. 査読有	
	林 忠賢 ● 論文等 【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】 1. 林忠賢．台湾の生涯学習・この1年：デジタル時代に求められるメディアリテラシー．東アジア社会教育研究，2023: 150~162. 査読無	
	WINGS 生 石井 裕人 ● 論文等 【国内学会・シンポジウム等における発表】 1. 石井裕人，山岸雅彦，矢島潤一郎．絨毛の屈曲波運動を実現する絨毛キネシンの力学特性．第61回日本生物物理学会年会，名古屋，2023. 11. 14-16. 査読無 ● 受賞歴 1. 2024年3月「広域科学専攻奨励賞」（石井裕人）	
	石川 健人 ● 論文等 【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】 1. Daiji Y, Maezawa M, Ishikawa K, Chambers JK, Uchida K, Inokuma H. Enzootic bovine leukosis caused by bovine leukemia virus classified as Group C based on viral whole genome sequencing in a 23-month-old Holstein-Friesian heifer. Journal of Veterinary Medical Science, 2023; 85(12): 1291-1295. 査読有 【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】 1. Daiji Y, Maezawa M, Ishikawa K, Chambers JK, Uchida K, Inokuma H. Enzootic bovine leukosis caused by bovine leukemia virus classified as Group C based on viral whole genome sequencing in a 23-month-old Holstein-Friesian heifer. Journal of Veterinary Medical Science, 2023; 85(12): 1291-1295. 査読有	【国際学会・シンポジウムにおける発表】 1. Ishikawa K, Chambers JK, Uchida K. Pathological study on the molecular mechanism of Wnt/ β -catenin signaling in sporadic canine intestinal epithelial tumors. NTU-UTokyo Joint Conference, Taipei, Taiwan, 2023. 12. 7-8. 査読無 【国内学会・シンポジウム等における発表】 1. 石川健人，チェンバーズジェームズ，中島亘，内田和幸．イヌの腸上皮増殖性病変における Wnt/ β -catenin シグナル伝達経路の活性化および CTNNB1 変異．第11回日本獣医病理学専門家協会学術集会，鹿児島，2024. 3. 28-29. 査読無
		板倉 悠真 ● 論文等 【国内学会・シンポジウム等における発表】 1. 加藤響平，板倉悠真，菅村健也，小紫公也，関根北斗，小泉宏之．デトネーション管を有するパルス型レーザー推進機内部に形成される圧力分布構造．日本航空宇宙学会第54期年会講演会，青梅，2023. 4. 13-14. 査読無 2. 加藤響平，板倉悠真，小紫公也，関根北斗，小泉宏之．RPレーザー推進機内部に誘起される複雑な流れと全圧損失．第67回宇宙科学技術連合講演会，富山，2023. 10. 17-20. 査読無 3. 板倉悠真，加藤響平，小紫公也，関根北斗，小泉宏之．テーパ付きデトネーション管を有するパルス型レーザー推進機における性能解析．第67回宇宙科学技術連合講演会，富山，2023. 10. 17-20. 査読無 4. 板倉悠真，加藤響平，小紫公也，関根北斗，小泉宏之．ガウシアンビームとフラットビームが誘起するレーザー支持爆轟波の特徴について．レーザー学会学術講演会第44回年次大会，青梅，2024. 1. 16-19. 査読無 5. 板倉悠真，加藤響平，小紫公也，関根北斗，小泉宏之．レーザー支持爆轟波において生じるレーザービームの外側への流れとそれがもたらす波面構造変化の定量的評価．2023年度衝撃波シンポジウム，小倉北，2024. 3. 5-7. 査読無
		北代 絢大 ● 論文等 【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】 1. Kitadai A., Lugo S.D.R., Lee S., Fujita M., Nishino N. Weighted Reward Allocation Mechanism for Data Collection Quality. International Conference on Group Decision and Negotiation, 2023; vol 478: 161-174. 査読有 2. Kitadai A., Tsurusaki Y., Fukasawa Y., Nishino N. Toward a Novel Methodology in Economic Experiments: Simulation of the Ultimatum Game with Large Language Models. 2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData), 2023; 3168-3175. 査読有

3. Zhou Z., Kobayashi M., Sato U., Akashi K., Kitadai A., Sugihara S., Fuwasawa Y., Fujita M., Nishino, N. Evaluating the alleviation of traffic congestion through Bus Rapid Transit using Multi-Agent Simulation. 2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData), 2023; 3237-3244. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Fujita M., Dai Y., Kitadai A., Lugo S.D.R., Cheng Z., Nishino N., Survey on Stakeholder Cooperative Behavior for Designing Voluntary Medical Data Provision Motivation Mechanisms. The 17th CIRP International Conference on Intelligent Computation in Manufacturing Engineering, Naples, Italy, 2023. 7. 12-14. 査読有
2. Fujita M., Cheng Z., Lugo S.D.R., Kitadai A., Dai Y., Fukasawa Y., Nishino N., Analysis of Medical Data and Machine-Learning Algorithms from the Perspective of Public-Goods Models of Data-Provision Decision Making. The 17th CIRP International Conference on Intelligent Computation in Manufacturing Engineering, Naples, Italy, 2023. 7. 12-14. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 北代絢大, 鶴崎祐大, 深澤祐援, 西野成昭. 最後通牒ゲームの大規模言語モデルを用いたシミュレーション — 経済実験における新手法確立に向けて —. 行動経済学会第 17 回大会, 高知, 2023.12. 9-10. 査読有
2. 小林美充希, 北代絢大, 周澤宇, 藤田正典, 西野成昭. 大規模集客施設周辺における渋滞緩和のための交通分析: 実データに基づいたモデル化及びシミュレーション. サービス学会第 12 回国内大会, 東京, 2024. 3. 5-7. 査読有
3. Cheng Z., Kitadai A., Lugo S.D.R., Nishino N., Fujita M., Zhang L. Medical Data Classification and Provision Willingness Analysis Based on Public Goods Perspective. サービス学会第 12 回国内大会, 東京, 2024. 3. 5-7. 査読有
4. 成也, 澤崎遙夏, 西野成昭, 北代絢大, 李相直. 複製を用いた一対多マッチングの一対一のマッチング問題への変換手法に関する研究. サービス学会第 12 回国内大会, 東京, 2024. 3. 5-7. 査読有

● 受賞歴

1. 2023 年 6 月「GDN 2023 Springer Best Student Paper Award」(Kitadai A., Lugo S.D.R., Lee S., Fujita M., Nishino N. Weighted Reward Allocation Mechanism for Data Collection Quality)
2. 2023 年 12 月「行動経済学会ポスター報告奨励賞 (一般部門)」(北代絢大, 鶴崎祐大, 深澤祐援, 西野成昭. 最後通牒ゲームの大規模言語モデルを用いたシミュレーション — 経済実験における新手法確立に向けて —)

日下部 紗伎

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kusakabe S., Katashima T., Xiang L., Kobayashi E., Sakuma I., Akagi Y. Structure-property relation of high-molecular weight PEO/silica nanocomposites. The 13th SPSJ International Polymer Conference, Sapporo, Japan, 2023. 7. 21. 査読無
2. Kusakabe S., Katashima T., Xiang L., Kobayashi E., Sakuma I., Akagi Y. Macroscopic property and microscopic dynamics of high-molecular weight PEO/silica nanocomposites. The 7th International Soft Matter Conference, Osaka, Japan, 2023. 9. 7.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 日下部紗伎, 片島拓弥, リシャン, 佐久間一郎, 赤木友紀. 超高分子量 PEO/silica ナノ粒子混合系の 2 段階相分離挙動. 第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 長野, 2023. 9. 12. 査読無

小関 裕介

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Koseki, Y., & Amemiya, T. Modulation of the Walking Speed by Moving Avatars with Age Stereotype Stimuli. In International Conference on Human-Computer Interaction, Copenhagen, Denmark, 2023.7 101-110. 査読なし.
2. Koseki, Y., Arikawa, Y., Nakano, K., & Narumi, T. Avatars for Good Drinking: An Exploratory Study of The Effects of Avatar's Body Shape on Beverage Perception. In SIGGRAPH Asia 2023 Posters, Sydney, Australia, 2023.12. 1-2. 査読あり

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 小関裕介, 中野萌士, 鳴海拓志, 葛岡英明, 雨宮智浩. 対話者アバタの融合身体的ミラーリングが相手の印象に与える影響. IE/IMQ/MVE/AC/CQ 合同研究会, 那覇, 2024. 3. 査読なし.

● 受賞歴

1. 2024 年 3 月 [DAAX Experience Design Student Award](小関裕介. “飲食体験と味覚を拡張する 1 人称バーチャルアバタの開発”)

佐藤 みずき

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 佐藤みずき. 日本外務省の対露交渉と対外情報発信: 大連会議・

ワシントン会議・長春会議(1921-22年)・日露関係史研究会(共催:シベリア出兵史研究会), オンライン, 2023. 12. 23. 査読無

島田 啓太郎

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Shimada K, Inada Y, Ishijima A, Nakagawa K. Spectrum shuttle for producing spatially shapable GHz burst pulses. Advanced Photonics Nexus, 2023; 3, 016002. 査読有, カバーアート掲載
2. Saiki T, Shimada K, Ishijima A, Song H, Qi X, Okamoto Y, Mizushima A, Mita Y, Hosobata T, Takeda M, Morita S, Kushibiki K, Ozaki S, Motohara K, Yamagata Y, Tsukamoto A, Kannari F, Sakuma I, Inada Y, Nakagawa K. Single-shot optical imaging with spectrum circuit bridging timescales in high-speed photography. Science Advances, 2023; 9, eadJ8608. 査読有
3. Saiki T, Shimada K, Sakuma I, Inada Y, Nakagawa K. Single-shot ultrafast dual-view imaging of shock waves in parallel laser processing. Applied Physics Express, 2023; 16, 092004. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 島田啓太郎, 佐伯峻生, 中川桂一. 超高速現象の多元的な理解に向けた全光学的イメージングの展開, 2024; 62(2), 31-39.

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Shimada K, Inada Y, Ishijima A, Nakagawa K. Two-dimensional electron density measurement of ultrafast laser ablation plume with Shack-Hartmann sensor. The 24th International Symposium on Laser Precision Microfabrication, Hiroaki, Japan, 2023. 6. 13-16. 査読有
2. Shimada K, Saiki T, Inada Y, Nakagawa K. Ultrafast single-shot imaging of plasma produced by two ultrashort pulses focused at different angles and times. 11th International Workshop on Warm Dense Matter, Awaji, Japan, 2023. 6. 25-30. 査読有
3. Shimada K, Inada Y, Ishijima A, Nakagawa K. Accurate measurement of a two-dimensional line-integrated electron density distribution in irreproducible microscale high-density plasmas. The 4th University of Toronto, McMaster University and the University of Tokyo (UT2-MAC) Student Workshop, Tokyo, Japan, 2023. 4. 16-19. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 島田啓太郎, 中川桂一. フェムト秒からナノ秒を可視化する光学的撮影技術 STAMP の進展. 高速度イメージングとフォトニクスに関する総合シンポジウム 2023, 東大阪, 2023,12, 13-15. 招待講演

ジョン セギョン

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 鄭 世暻. 「化学物質過敏症が持つ「非可視性」と患者の「可視化作業」:「患者」と「被害者」の間で」. 『ソシオロギス』, 2024年10月(予定); 48号. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. 鄭 世暻. Housing Difficulties and Support for Multiple Chemical Sensitivity (MCS) Patients as “Environmental Refugees”: From the Case of ‘Aiai-Hime-no-yu’ in Japan. 第9回東アジア環境社会学国際シンポジウム, 横浜, Country, 2023年11月5日. 査読有
2. 鄭 世暻. 日本化学物質過敏症患者の脱正統化経験と抵抗:「論争中の病」から「環境病」へ. 韓国環境社会学会(2月学術報告会), 韓国(zoom), 2024年2月23日. 招待有り

● 受賞歴

1. 2023年10月「クロネ賞」(鄭 世暻. 東京大学社会学研究室同窓会クロネ賞修士論文の部)

鈴木 勇人

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 鈴木勇人. 東京大都市圏の墳墓供給における民間部門の役割. 2024年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2024. 3. 19-20. 査読無
2. 鈴木勇人. 公共サービスとしての墓地供給と公民関係の実態—東京大都市圏を事例に一—. 2024年日本地理学会春季学術大会, 成熟社会におけるローカル・ガバナンスの地理学研究グループ, 東京, 2024. 3. 20. 査読無

弦本 健太郎

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Tsurumoto K, Ohnishi W, Takafumi K, van Haren M, Oomen T. Combined time-domain optimization design for task-flexible and high performance ILC. European Control Conference, Stockholm, 2024.6.25-28 予定. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 弦本健太郎, 大西亘, 古関隆章. 周波数領域設計と基底関数を組み合わせた反復学習制御: 有理基底関数と事前動作によるタスク柔軟性向上の基礎検討. メカトロニクス制御研究会, 東京,

2023. 9. 25. 査読無

● 受賞歴

- 2024 年 3 月「工学系研究科長賞（研究）」（弦本健太郎，修士論文「Complementary Learning and Estimation for High-Precision Motion Control」）

田 子健

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Tian Z. Exploring changes in the recognition of collective behaviors and social norms across lifespan. IARU-ALH Annual Conference Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future, Tokyo, Japan, 2023. 10. 17. 査読無
- Tian Z., Kishiyama T., Chen T., Hirose Y., & Makuuchi M. Similar clusters, different sequences: Drawing orders in adults and 4-5-year-olds during an object-copying task. 2023 NTU-UT Linguistic Festa, Taipei, 2023. 8. 25. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 田子健，松中玲子，開一夫．赤ちゃんは周囲に合わせた行動を好むのか～生後 11 ヶ月児における「順番待ち」のルールの認識～．日本赤ちゃん学会第 23 回学術集会，大阪，2023. 8. 5-6. 査読有

中島 優樹

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Mixich L, Boonstra E, Masuda K, Li SW, Nakashima Y, Meng F, Sakata M, Goda T, Uchida S, Cabral H. Ionizable Polymeric Micelles with Phenylalanine Moieties Enhance Intracellular Delivery of Self-Replicating RNA for Long-Lasting Protein Expression In Vivo. Biomacromolecules. 2024 Jan 5; 25(2): 1058-67. 査読有．

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Nakashima Y, Yang W, Pengwen C, Cabral H, “Messenger RNA loaded polymeric micelles stabilized by π - π stacking enhance in vivo efficiency”, MRM2023/IUMRS-ICA2023 Grand Meeting, Kyoto, Japan, December 11-16. 査読有．国際会議．

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- Nakashima Y, Yang W, Miyazaki T, Cabral H, “Block cationomers with flanking hydrolysable tyrosinate groups enhance in vivo mRNA delivery via π - π stacking-assisted

micellar assembly”、第 3 3 回バイオマテリアル研究若手会，東京，2023. 10. 19-20. 査読無．

中根 葵

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Nakane A, Yanokura I, Ichikura A, Okada K, Inaba M. Development of Robot Guidance System Using Hand-holding with Human and Measurement of Psychological Security. The 2023 IEEE International Conference on Robot & Human Interactive Communication, Busan, Korea, 2023. 8. 28-31. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 中根 葵，長谷川 峻，矢野倉 伊織，真壁 佑，山口 直也，岡田 慧，稲葉 雅幸．指側面の近接・力覚で人の手の握り状態を推定する五指ハンドの開発と手繋ぎ動作の実現．日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 '23, 名古屋，2023. 6. 28-7. 1. 査読無
- 中根 葵，矢野倉 伊織，長谷川 峻，小島 邦生，岡田 慧，稲葉 雅幸．接触面に合わせて変形可能な柔軟被覆と触覚を有する手繋ぎのための五指ロボットハンドの開発．第 41 回日本ロボット学会学術講演会，仙台，2023. 9. 11-14. 査読無

平澤 郷

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Inoue Y, Fukushima M, Hirasawa G, Furukawa F, Takeda H, Umatani C. Maternal High-Fat Diet Affects the Contents of Eggs and Causes Abnormal Development in the Medaka Fish. Endocrinology, 2024; 165(3): bqae006. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 平澤郷，兼田竜昇，松田（今井）典子，西野耕平，小迫英尊，木内隆史，勝間進．カイコの遺伝子量補償を制御する Masc 複合体の解明．日本蚕糸学会第 94 回大会，つくば，2024. 3. 14-15. 査読無

廣 佳穂里

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Kuboyama-Sasaki A, Takahashi Y, Xia C, Hiro K, Kobayashi T, Ohdan H, Shimizu M, Yamauchi Y, Kiyono H, Sato R. Establishment of a cell culture platform for human liver organoids and its application for lipid metabolism research:

Biotechnol J. 2024 Jan; 19 (1). 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 廣佳穂里, 高橋裕, 丸山貴史, 山内祥生, 佐藤隆一郎. 精製タンパク質を用いた HTS による SREBP-1 結合化合物の探索. 第 22 回東京大学生命科学シンポジウム, 東京, 2023. 6. 17.
2. 廣佳穂里, 高橋裕, 丸山貴史, 岡部隆義, 小島宏建, 山内祥生, 佐藤隆一郎. 大規模なバインダースクリーニングによる SREBP-1 特異的結合化合物の同定. 第 96 回日本生化学会大会, 福岡, 2023. 10. 31-11. 02.
3. 廣佳穂里, 高橋裕, 丸山貴史, 岡部隆義, 小島宏建, 山内祥生, 佐藤隆一郎. SREBP-1 特異的阻害剤創製を目指したバインダースクリーニング. 日本農芸化学会 2024 年度東京大会, 2024. 3. 24-27.

牧野 巧

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 牧野 巧, 櫻井英俊, 佐藤隆一郎, 山内祥生. I 型 BMP 受容体の阻害による骨格筋細胞の成熟化評価. 日本生化学会関東支部 2023 年度大会, 山梨, 2023.6.10. 査読無
2. 牧野 巧, 櫻井英俊, 佐藤隆一郎, 山内祥生. 骨格筋細胞の成熟化における BMP シグナルの機能解析. 日本農芸化学会関東支部 2023 年度大会, 神奈川, 2023.8.25. 査読無
3. 牧野 巧, 櫻井英俊, 佐藤隆一郎, 山内祥生. ヒト iPS 細胞由来骨格筋細胞およびマウス筋芽細胞を用いた筋細胞成熟化誘導法の開発. 日本農芸化学会 2024 年度大会, 東京, 2024.3.24-27. 査読無

● 受賞歴

1. 2024 年 1 月 中富健康科学振興財団 令和 5 年度 (第 36 回) 研究助成受賞 (牧野 巧) サルコメア形成メカニズムの解明と筋疾患治療およびサルコ ペニア予防への応用

増田 桃佳

● 論文等

【学術雑誌等 (紀要・論文集等も含む) に発表した論文】

1. Aisyah CR, Mizuno Y, Masuda M, Iwamoto T, Yamasaki K, Uchida M, Kariya F, Higaki S, Konishi S. Association between Sperm Mitochondrial DNA Copy Number and Concentrations of Urinary Cadmium and Selenium. Biological trace element research, 2023; 202 (6) : 2488-2500. 査読有
2. 今井 秀樹, 水野 佑紀, Cindy Rahman AISYAH, 増田 桃佳, 小西 祥子. 化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題. 日本衛生学雑誌, 2023; 78: 22009. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説・総説】

1. 増田桃佳. 食の炎症性—食事性炎症指数 (DII) と高齢者の生活の自立度. 医学のあゆみ, 2023; 285(9): 823-824. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 愛甲達也, 増田桃佳, 後藤千穂, 今井秀樹, 大西真由美, 梅崎昌裕. 地方に居住する中高年者の食事性炎症指数は空間クラスターを形成するか. 第 94 回日本衛生学会学術総会, 鹿児島, 2024. 3. 7-9. 査読無
2. 那賀裕朗, 水野佑紀, 増田桃佳, 今井秀樹, 梅崎昌裕. 日本の農村漁村地域住民の尿中 Cd 濃度とその関連要因の探索. 第 94 回日本衛生学会学術総会, 鹿児島, 2024. 3. 7-9. 査読無

● 受賞歴

1. 2024 年 3 月「2023 年度日本衛生学会最優秀論文賞」(今井 秀樹, 水野 佑紀, Cindy Rahman AISYAH, 増田 桃佳, 小西 祥子. 化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題)

山口 達寛

● 論文等

【学術雑誌等 (紀要・論文集等も含む) に発表した論文】

1. Yamaguchi T, Kouzaki K, Sasaki K, Nakazato K. Alterations in neuromuscular junction morphology with ageing and endurance training modulate neuromuscular transmission and myofibre composition. Journal of Physiology. Published online January 3, 2024. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yamaguchi T, Kouzaki K, Nakazato L, Sasaki K. Endurance training counteracts age-related functional and structural alterations of neuromuscular junction in mice. European College of Sport Science 2023. Paris, France. 2023.07.05. 査読有
2. Yamaguchi T, Sasaki K, Nakazato K. Neuromuscular junction degeneration due to immobilization impairs neuromuscular transmission and alters myofiber composition. Neuroscience 2023. Washington DC, USA. 2023.11.13. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 山口達寛, 佐々木一茂, 中里浩一. 骨格筋の不動態がマウス神経筋接合部における信号伝達と筋線維組成に及ぼす影響. 日本運動生理学会. 2023 年 8 月 24 日. つくば. 査読無.

● 受賞歴

- 2023.07.07. Young Investigators Award 2nd place for oral presentation. Yamaguchi T, Kouzaki K, Nakazato L, Sasaki K. European College of Sport Science.
- 2024.03.24. ヤマハ発動機スポーツ振興財団第 17 回チャレンジャーズミーティング 研究助成最優秀発表賞. 山口達寛.

山口 敦大

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 山口敦大. 稲作経営の園芸作導入にソーシャル・キャピタルと経営者態度が与える影響. 日本農業経済学会. 仙台, 2024. 3. 31. 査読有

山下 港

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

- Yamashita M, Tamamitsu M, Kirisako H, Goda Y, Chen X, Hattori K, Ota S. High-throughput 3D imaging flow cytometry of adherent 3D cell cultures. bioRxiv, 2023. 査読無
- Yamashita M, Tamamitsu M, Kirisako H, Goda Y, Chen X, Hattori K, Ota S. High-throughput 3D imaging flow cytometry of adherent 3D cell cultures. Small Methods, 2023. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

- 山下港, 太田禎生. 大規模 3 次元細胞イメージングフローサイトメトリー. 月刊オプトロニクス, 2024; 3 月号: 70-74. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Yamashita M, Tamamitsu M, Kirisako H, Goda Y, Chen X, Hattori K, Ota S. High-throughput and highly scalable 3D imaging platform for 3D cell culture models. CYTO 2023, Montréal, Canada, 2023. 5. 20-24. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 山下港, 玉光未侑, 桐浴裕巳, 合田有希, 陈骁尧, 服部一輝, 太田禎生. High-throughput 3D imaging flow cytometry of 3D cell cultures. 第 22 回東京大学生命科学シンポジウム, 東京, 2023. 6. 16-17. 査読無
- 服部一輝, 前川瑠里, 山下港, 桐浴裕巳, Mead B, Shalek A, Karp J, 太田禎生. 三次元培養モデルの大量・並列解析による、in vivo の再現. 兵庫. 2023. 12. 6-8. 査読有
- 服部一輝, 前川瑠里, 山下港, 桐浴裕巳, Mead B, Shalek A, Karp J, 太田禎生. 三次元培養モデルの大量・並列解析による、

in vivo の再現. 兵庫. 2023. 12. 6-8. 査読有(ポスター発表)

● 受賞歴

- 2023 年 6 月「第 22 回東京大学生命科学シンポジウム・ポスター賞」(山下港, 玉光未侑, 桐浴裕巳, 合田有希, 陈骁尧, 服部一輝, 太田禎生. High-throughput 3D imaging flow cytometry of 3D cell cultures)

横峰 真琳

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

- Morimoto J †, Shiratori Y †, Yokomine M †, Ueda T, Nakamuro T, Takaba K, Maki-Yonekura S, Umezawa K, Miyanishi K, Fukuda Y, Watanabe T, Mizukami W, Takeuchi K, Yonekura K, Nakamura E, Sando S. Bottom-up design of peptide nanoshapes in water using oligomers of N-methyl-L/D-alanine. ChemRxiv, 2023; 10.26434/chemrxiv-2023-c4mw6. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 横峰 真琳・森本 淳平・福田 泰啓・上田 卓見・竹内 恒・梅澤 公二・吾郷 日出夫・松浦 滉明・上野 剛・長門石 暁・津本 浩平・山東 信介. MDM2 結合性ペプチドと MDM2 の結合様式の解析. 第 17 回バイオ関連化学シンポジウム, 野田, 2023. 9. 08-10. 査読無
- 横峰 真琳・黒田 大祐・上田 卓見・竹内 恒・津本 浩平・森本 淳平・山東 信介. In silico screening of protein-protein interaction inhibitors using oligo(N-methylalanine) as a scaffold. CBI 学会 2023 年大会, 船堀, 2023. 10. 23-26. 査読無

吉澤 将嗣

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 吉澤将嗣, 川本裕大, 竹下大介, 「グランドスラム大会の試合データを用いたスコア別ポイント重要度のモデル分析」, 第 35 回日本テニス学会大会, 講演番号 O1-2, 名古屋, 2023. 12. 9-10 (口頭・査読無)